

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康栄養学部管理栄養学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎教育科目	哲学Ⅰ	本講義は、主に古代ギリシア哲学を取り扱い、①哲学はどのような学問かを理解すること、②古代ギリシアにおける哲学の展開を理解すること、③科学と哲学の学問的特性を理解することを目標とする。具体的には、哲学的問題とはどのようなものか、哲学の語源、ソクラテスの思惟、哲学の形成（始源の探求、論理の自覚、自然学と人間学）、存在論の基本問題（プラトンのイデア論、アリストテレスの存在論）、近代の認識論的枠組（哲学と科学）について授業を進める。評価は、定期試験（約70%）、レポートの提出等の平常点（約30%）による。（授業形態：講義）	
	哲学Ⅱ	本講義は、主に近現代の哲学を取り扱い、①近代の学問的状况と近代哲学の成立を理解すること、②近代哲学の課題と展開を理解すること、③人間存在の現代的考察について理解することを目標とする。具体的には、近代哲学の成立、デカルトの哲学（方法的懐疑、二元論）、イギリス経験論の系譜（ロック、バークリ、ヒューム）、カントの認識論、現代哲学（環境世界と世界内存在—ユクスキュル、ハイデッガー、ギブソン）について授業を進める。評価は、定期試験（約70%）、レポートの提出等の平常点（約30%）による。（授業形態：講義）	
	倫理学Ⅰ	倫理学Ⅰは、洋の東西を問わず、先賢たちの倫理思想史を講義する。先賢たちの生きた時代背景を踏まえながら、各人がとらえた「生きる」ことに対する問題を解説し、その英知を習得することを目指す。自己とは何か、他者とは何か、そしてこうした根本的問題から倫理とは何かという問題に繋げ、現代における人間のあり方を考えるヒントとしていく。評価は出席・レポート・定期試験結果の総合評価による。（授業形態：講義）	
	倫理学Ⅱ	倫理学Ⅱは、生命倫理、環境倫理、情報倫理などの応用倫理学の問題を実際に考えていく。まず応用倫理学の問題を具体的に考察するために、功利主義・民主主義・自由主義という三つの柱について解説する。この柱から導かれる正義とは何かという問題に触れ、年度ごとに異なる具体的テーマ、例えば、生殖医療問題、尊厳死・安楽死の問題、環境問題、ネット炎上問題などを設定し、学生に考察させていく。評価は出席・レポート・定期試験結果の総合評価による。（授業形態：講義）	
	文学Ⅰ	本講義は、古今東西の文学作品を幅広く紹介し、文学作品を読む喜びを伝えることを目標とする。具体的には、時間毎に、「青春文学」、「愛と死」、「究極の愛」、「物語の発生」、「ブラックユーモア」、「SF小説」、「家族」、「幻想文学」などテーマを決めて、そのテーマをよく表している文学作品を紹介しながらテーマを掘り下げ、さらに、関連する文学作品にも言及する。評価は、講義内容について問う試験と、課題リストから選んだ文学作品についてのレポートによる。（授業形態：講義）	
	文学Ⅱ	本講義は、1作1作の文学作品を熟読し、時代背景も含めて深く理解することを目標とする。具体的には、宮本輝『泥の河』、藤枝静男「一家団欒」、ネヴィル・シュート『渚にて』、深沢七郎『樫山節考』、近現代詩、ポール・ギャリコ『雪のひとひら』、ウィリアム・ゴールディング『蠅の王』などの作品を採り上げ、それぞれの作家の抱える問題意識、作品のテーマ、作品が成立した時代背景について理解を深める授業を進める。評価は、講義内容について問う試験と、課題リストから選んだ文学作品についてのレポートによる。（授業形態：講義）	

日本の古典の世界 I	<p>本講義は、日本の古典の歌は、どのように創造され継承されてきたのか・歌に含まれる歌詞内容には、どんな意味や効果があるのか・また歌の表記やリズムには、どんな効果があり・どのように享受されていたのかの理解を目標とする。具体的には、万葉集の概要、歌と事実、歌とリズム・響き、歌と呪力、歌と文字・表記、歌は誰が作ったのか、歌はどうやって享受されたのかについて授業を進める。評価は平常点と定期試験による。(授業形態：講義)</p>	
日本の古典の世界 II	<p>本講義は、4000首を超える膨大な歌(データ)が含まれた万葉歌を中心に、昔の歌は創造的であったのか・剽窃はなかったのか・剽窃は糾弾されたのか・昔の歌の構成はどのようなものだったのか・似た内容・同様な題の歌はなかったのかの理解を目標とする。具体的には、同じ題名の歌・創造と構成の論理、創造と剽窃の論理、とても似たメロディー・歌詞の曲があったら・創造と構成と剽窃の論理について授業を進める。評価は平常点と定期試験による。(授業形態：講義)</p>	
歴史学 I	<p>本講義は、歴史学とは何かを概観したうえで、主として今日の世界のあり方に大きな影響を及ぼしたヨーロッパの歴史について考察することを目標とする。具体的には、先史時代、オリエントと地中海世界(古代オリエント・ギリシア・ローマ)、ヨーロッパ世界の形成と発展(東西ヨーロッパ世界の成立、西ヨーロッパ中世世界とその変容)、近代ヨーロッパの成立(ヨーロッパの拡大、ルネサンス)について授業を進める。評価はレポートと筆記試験による。(授業形態：講義)</p>	
歴史学 II	<p>本講義は、歴史学とは何かを概観したうえで、今日の世界のあり方に大きな影響を及ぼしたヨーロッパの歴史について考察することを目標とする。具体的には、近代初頭から第二次世界大戦までを対象時期として、近代ヨーロッパの成立、欧米における近代社会の発達、国民国家の発展、帝国主義の時代、二つの世界大戦について授業を進める。レポートと筆記試験による。(授業形態：講義)</p>	
東洋史 I	<p>本講義は、中国における王朝史を中心とし、その周辺地域、特に中華文明の影響が強かった範囲の歴史や社会のありかたにも関心を払いつつ、東洋の歴史について総合的かつ具体的に理解することを目標とする。具体的には、先史・殷周、諸子百家・秦・漢・土地制度、魏晋南北朝・隋唐、均田制・府兵制、両税法・東西交流、宋・科挙、新法・宋学、征服王朝・明、清初の皇帝、明清の社会と経済、陽明学・西力東漸について授業を進める。評価は試験および授業参加度による。(授業形態：講義)</p>	
東洋史 II	<p>本講義は、中国近代史、特に清末から中華民国初期の歴史事象について、欧米諸国・日本や朝鮮との関係にも留意しつつ、総合的かつ具体的に理解することを目標とする。具体的には、清朝前史、前近代清朝の政治・社会、アヘン戦争、太平天国運動、洋務運動、変法運動、義和団運動、立憲運動、孫文と辛亥革命、中華民国の成立、蒋介石と南京国民政府、中国共産党の成立、毛沢東の登場、について授業を進める。評価は試験および授業参加度による。(授業形態：講義)</p>	
東アジアの歴史と社会 I	<p>本講義は、東アジア地域における中華文明の生成、発展、受容に関する歴史および現代社会におけるその展開について理解することを目標とする。具体的には、東アジアの地域的範疇、漢字文化とその影響、食事文化と地域社会、風俗の多様性と統一性、国民国家の生成と近代化、儒学の生成、儒学思想と地域社会、官僚制、行政機構、現代東アジア社会の特質、現代東アジア社会と世界の関係について授業を進める。評価は試験および授業参加度による。(授業形態：講義)</p>	

東アジアの歴史と社会Ⅱ	本講義は、東アジア地域なかでも朝鮮半島南部、台湾、ヴェトナム、における現代社会の特質を、中華文明、中国との歴史的関係を背景としつつ理解することを目標とする。具体的には、朝鮮半島の王朝史、日本の朝鮮に対する植民地支配、現代韓国社会の特質、前近代台湾社会の特質、日本の台湾に対する植民地支配、現代台湾社会の特質、两岸関係、ヴェトナム王朝史、ヴェトナムの独立運動、現代ヴェトナム社会の特質について授業を進める。評価は試験および授業参加度による。(授業形態：講義)	
現代日本文化と東アジアⅠ	本講義は、現代の歌がどのように作られどのように売られるのか、歌手やアーティスト達は、どのように描かれ・映し出され、享受されているのか、また、東アジアとどうリンクしているのかの理解を目標とする。具体的には、日本の歌とJ・POPを大学で語る意味、作られた歌のイメージ、ヒットの法則、J・POPの製作過程・販売過程、アイドルの戦略、冬ソナブームは何だったのか、韓流と日本・中国について授業を進める。評価は平常点と定期試験による。(授業形態：講義)	
現代日本文化と東アジアⅡ	本講義は、J・POPは何を歌いどのように変化してきたのか、よく似た歌や盗作疑惑にはどんな意味があるのか、歌詞内容にはどんな意味や効果があるのか、歌は聴取態度によってどのように理解に違いがあるのか、J・POPは東アジアとどのような交流をもっているのか、文化がハイブリット化していく可能性の理解を目標とする。具体的には、歌の視聴態度、歌に主体呼称が果たす意味、韓国における日本の大衆文化の開放、ハイブリット化する東アジアの文化について授業を進める。評価は平常点と定期試験による。(授業形態：講義)	
論理学Ⅰ	本講義は命題論理学を取り扱い、①論理学はどのような学問かを理解すること、②命題と命題との間の論理関係を考察することで、論理的分析力・思考力を培うことを目標とする。具体的には、現代論理学の成立、論理的真理、文・判断・命題、論理的結合子、命題の記号化、論理式・真理関数、真理値分析・恒真式、真理値表から論理式を求める方法・標準形、論理式の変形・スイッチ回路、推理の妥当性と恒真式、推理の妥当性判定について授業を進める。評価は、定期試験(約50%)、論理パズルの提出、小テストの点数等の平常点(約50%)による。(授業形態：講義)	
論理学Ⅱ	本講義は伝統的論理学を取り扱い、①判断を概念と概念との間の論理関係として理解すること、②推理を概念間の論理関係として考察することで、論理的分析力、論理的思考を培うことを目標とする。具体的には、思考の根本法則、外延と内包、概念の種類・定義、判断の構造・種類、周延・ヴェン図、推理の種類・妥当性、対当推理、変形推理、三段論法の用語と形式、ヴェン図を用いた妥当性の判定、三段論法の規則について授業を進める。評価は、定期試験(約50%)、論理パズルのレポートの提出、小テストの点数等の平常点(約50%)による。(授業形態：講義)	
音楽と文化Ⅰ	本講義は、西洋音楽、所謂クラシック音楽の音楽史的流れを、各時代の社会的背景や文化的背景と共に学び、音楽を主体性を持って聴けるような体系的教養を培うことを目標とする。具体的には、西洋音楽の原点である古代ギリシャと中世、ア・カペラのルネッサンス、オペラの創始と器楽の発達のパロック、交響曲、弦楽四重奏曲やピアノ・ソナタのウィーン古典派、リート、性格的小品や標題音楽のロマン派、印象主義、表現主義から無調音楽の20世紀までについて授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。(授業形態：講義)	
音楽と文化Ⅱ	本講義は、世界の民族音楽を、日本古来の伝統音楽と深い繋がりのあるアジアの音楽を中心に、比較しながら学んで、私たちの文化の特性を理解することを目標とする。具体的には、アフリカの民族音楽、中東の民族音楽、インドの民族音楽、東南アジアの民族音楽、中国の民族音楽、韓国の民族音楽、そして日本の古典音楽である雅楽、能楽、文楽や歌舞伎の音楽と近代の唱歌や童謡、それに沖縄の音楽とアイヌの音楽について授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。(授業形態：講義)	

総合基礎教育科目	考古学Ⅰ	本講義は、考古学を通じて現代人の生活文化の源を探り、自分探しの旅を可能にし、また文明の発生・発展・衰亡と特質を学ぶことで、現代の文明へ生かす能力を養成することを目標とする。具体的には、考古学の定義、分野、方法論、考古学史、人類の起源・ヒト化Homonization、旧石器時代、中石器時代、新石器時代等などについて、学説や発掘のエピソードを提示し授業を進める。評価は、出席、レポート、試験によって総合的に判断する。（授業形態：講義）	
	考古学Ⅱ	本講義は、考古学を通じて現代人の生活文化の源を探り、自分探しの旅を可能にし、また文明の発生・発展・衰亡と特質を学ぶことで、現代の文明へ生かす能力を養成することを目標とする。具体的には西アジア・メソポタミア文明、インダス文明、東南アジア文明、中国文明、エジプト文明、エーゲ文明、ローマ文明、マヤ文明、アンデス文明などについて学説や発掘のエピソードを提示し、授業を進める。評価は、出席、レポート、試験によって総合的に判断する。（授業形態：講義）	
	古代学Ⅰ	本講義は、古代学・歴史学の基本認識を学んだ上で、日本の原始（旧石器、縄文、弥生）古代（古墳、律令）を中心に、日本の歴史の流れ、政治史・文化史・社会史を理解する能力を養成することを目標とする。具体的には、歴史学・古代学の方法論と歴史観の変遷、日本史の時代区分、原始古代史の流れ、岩宿の発見と化石人骨、旧石器時代、縄文時代、貝塚、墓制と祭祀、原始農耕などについて学説や発掘のエピソードを提示し、授業を進める。評価は、出席、レポート、試験によって総合的に判断する。（授業形態：講義）	
	古代学Ⅱ	本講義は、古代学・歴史学の基本認識を学んだ上で、日本の原始（旧石器、縄文、弥生）古代（古墳、律令）を中心に、日本の歴史の流れ、政治史・文化史・社会史を理解する能力を養成することを目標とする。具体的には、原始・古代史の流れ、日本人と日本文化の起源、稲作農耕の起源、弥生時代の集落、青銅器の祭祀、邪馬台国論、古墳時代と大和王権、東アジアと倭の五王などについて学説や発掘のエピソードを提示し、授業を進める。評価は、出席、レポート、試験によって総合的に判断する。（授業形態：講義）	
	平和学Ⅰ	本講義は、第一に平和学とは何かを概観したうえで、第二に戦争と平和構築の歴史について学び、平和強化と和解をめぐる諸問題について考察することを目標とする。具体的には、今日普遍的な価値としてとらえられている「平和のために過去を忘却してはならない」とする信念がいつ、いかに形成されてきたかを歴史的に明らかにすることによって、日本の「歴史問題」の解決をめぐる文脈、可能性と限界を探り、和解と共生の未来への地平を拓くための実践的方法を提案できるように授業を進める。評価はレポートと筆記試験による。（授業形態：講義）	
	平和学Ⅱ	本講義は、第一に核をめぐる諸問題について、第二に地域紛争と民族対立・宗教対立について、第三に戦争や紛争、災害などの限界状況において、人間の尊厳をいかに保護していくかについて具体的に考察することを目標とする。具体的には、広島・長崎への原爆投下をめぐる諸問題、冷戦と核軍拡競争、核管理、「第二の核時代」、中東紛争、限界状況における人間性の保護、人道機関の理念と行動規範、人道援助の実践について授業を進める。評価はレポートと筆記試験による。（授業形態：講義）	
	法学（日本国憲法）	本講義は、法分野の中で国の基本法である憲法を中心に、その役割や機能を考え、その過程で法的なものの考え方に触れながら、教養としての基礎的な法知識の理解を目標とする。具体的には、日本国憲法の原理が国の政治のあり方や社会生活の基礎となっていることから、われわれの身の回りの憲法問題を取り上げながら、憲法の意味とその法的特質をはじめとした憲法の総論、9条・戦争の放棄、人権保障、統治機構、憲法改正手続などを概説しながら授業を進める。評価はレポート、筆記試験により総合的に行う。（授業形態：講義）	

総合基礎教育科目	経済学Ⅰ	本講義は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学を学ぶ際に前提となる経済統計や経済制度について学習し、また、現在の経済情勢について理解を深めることを目標とする。さらに、経済学の基礎である需要・供給分析、総需要・総供給分析についても解説を行う。具体的には、①国民所得統計や雇用統計、物価指数などの経済統計、②日本の財政・金融制度、③日本の企業・産業の特徴、④国際収支と外国為替市場、⑤需要・供給分析、⑥総需要・総供給分析について授業を進める。評価は、出席と定期試験結果の総合評価による。(授業形態：講義)	
	経済学Ⅱ	本講義は、経済学Ⅰで学習した基礎事項を踏まえ、ミクロ・マクロ経済学の基礎的分析手法を習得し、経済学の応用分野について概観することを目標とする。具体的には、①需要・供給分析の基礎と応用、②市場メカニズム、③市場の失敗と公共経済学、④総需要・総供給分析の基礎と応用、⑤経済成長と景気変動、⑥金融システムとファイナンスの基礎、⑦財政・金融政策、⑧国際経済学について授業を進める。評価は、出席と定期試験結果の総合評価による。(授業形態：講義)	
	社会学Ⅰ	本講義は、社会そのもののもつ基本的構造や変動の法則を研究する社会学の知識を身につけ、社会的な思考というもの、いかなるものであるかということ、学生諸君が毎日の日常生活で経験する具体的で身近な事例を用いながら明らかにし、それがもつ現代社会の中での意味を共に考えることを目標とする。具体的には、社会学の基礎概念、若者と性、家族、若者にとって職業とは、について授業を進める。評価は平常点とレポート課題、試験による。(授業形態：講義)	
	社会学Ⅱ	本講義は、社会そのもののもつ基本的構造や変動の法則を研究する社会学の知識を身につけ、社会的な思考というもの、いかなるものであるかということ、学生諸君が毎日の日常生活で経験する具体的で身近な事例を用いながら明らかにし、それがもつ現代社会の中での意味を共に考えることを目標とする。具体的には、社会変動と若者、キャンパスライフ、消費とレジャー、配偶者選択と結婚、若者と規範意識、若者のかかえる心理的課題、について授業を進める。評価は平常点とレポート課題、試験による。(授業形態：講義)	
	人文地理Ⅰ	本講義では、広く地理学という視点から川と人間の関わりを具体的なテーマとし、地表の科学としての地理学の見方や考え方の基礎を理解することを目標とする。具体的には、川のすがたと流域の景観イメージ、山から海へ、山から平野へ、平野と蛇行する川、デルタ地帯の川と人々の生活、堤防の進化にみる洪水対策、川の利用法としての河川舟運、都市型水害を知る、ダムと土砂管理について授業を進める。評価は、学期末の課題レポート、授業時の小レポートおよび出席状況の総合評価による。(授業形態：講義)	
	人文地理Ⅱ	本講義では、人間の諸活動の場所的差異の形成や地域の問題など、応用的な人文地理学的視点について学習し、理解することを目標とする。具体的には、地理学の中での人文地理学、地理学にとっての地図、都市の近代化と都市問題、都市化の進展がもたらすスプロール的土地利用と日本のニュータウン、都市化の進展がもたらす災害、現代都市の起源としての歴史的都市、鉱工業都市、近代開拓地域における商業的農業の展開について授業を進める。評価は、学期末の課題レポート、授業時の小レポートおよび出席状況の総合評価による。(授業形態：講義)	
	政治学Ⅰ	本講義は、政治学の基礎的な概念を習得することを目標とする。具体的には、政治の世界、政治的なものの概念、政治権力の起源、政治権力におけるイデオロギー性、政治と暴力、政治と戦争、政治と平和、公共性の起源、リベラリズムと議会主義、デモクラシー、現代国家観、グローバリゼーション・新自由主義・帝国主義との関連、政治とフェミニズム、ジェンダー、ポストコロニアル、政治的イデオロギー批判などについて授業を進める。評価は、定期試験、レポート、平常点の総合評価による。(授業形態：講義)	

政治学Ⅱ	本講義は、政治学の基礎的な概念を、歴史の流れから習得することを目標とする。具体的には、古代ギリシャの政治学、プラトンとアリストテレスの国家論、古代ローマの政治学、キリスト教の政治的意味、ヨーロッパ中世の政治思想、ルネッサンスの政治思想、宗教改革の近代政治思想への影響、近代革命（議会 憲政 基本的人権）、社会契約（ルソー）と人民主権、カントの平和論、ドイツ理想主義におけるナショナリズム、帝国主義から全体主義への移行近代日本における政治的なものの概念などについて授業を進める。評価は、定期試験、レポート、平常点の総合評価による。（授業形態：講義）	
文化人類学Ⅰ	本講義は、文化人類学の理論をふまえたうえで、「民族」、「人種」、「先住民」、「白人」をキーワードに講義を展開し、自分の価値観を相対化するとともに、自分の価値観とは異なる世界を包み込む、柔軟な知力を養うことを目指します。具体的には、文化人類学の方法と考え方、文化人類学の歴史的展開、社会進化論からポスト構造主義人類学にいたる理論的系譜、人種というフィクション、民族という神話について授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。（授業形態：講義）	
文化人類学Ⅱ	本講義は、文化人類学の理論をふまえたうえで、身近な社会的現象である時間をキーワードに講義を展開し、あるひとつの社会（ある時代・ある文化）における当たり前の見方・考え方を当たり前のものとはしない人類学的見方・考え方を習得し、自分の価値観を相対化するとともに、自分の価値観とは異なる世界を包み込む、柔軟な知力を養うことを目指す。具体的には、時間を権威や儀礼、神話、音楽、贈与という側面から検討しながら授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。（授業形態：講義）	
現代政治思想論Ⅰ	本講義は、日本近代国家の成立から現代までの思想史的展開を理解・習得することを目標とする。具体的には、明治近代国家の成立、明治近代日本の国家主義、国家と法、明治国家の特色、国民の創出、日本リベラリズム、近代国家とファシズム、第二次世界大戦後の日本における平和問題、戦後啓蒙における共通観念、戦後日本における市民の概念、近代日本における政治的なものの概念・公共性などについて授業を進める。評価は、定期試験、レポート、平常点の総合評価による。（授業形態：講義）	
現代政治思想論Ⅱ	本講義は、現代政治理論における批判理論を理解・習得することを目標とする。具体的には、批判理論の現代的意味、ドイツにおけるユダヤ人問題と共産主義、フランクフルト研究所の設立、ルカーチのヨーロッパ的共産主義論、ベンヤミンの暴力批判論、フランクフルト研究所のナチズム批判、研究所の大衆文化批判、ホルクハイマーとアドルノの啓蒙主義批判、弁証法的方法論の終焉、批判理論の本質などについて授業を進める。評価は、定期試験、レポート、平常点の総合評価による。（授業形態：講義）	
教育と人権Ⅰ	本講義は、子どもと人権にかかわるさまざまな現状を理解して、教育を考える手掛かりにすることを目標とする。具体的には、子どもの権利条約の内容と意義について逐条解説をするとともに現実の問題提起をして授業をすすめたい。評価は、主として小論文の作成を成績とする。（授業形態：講義）	
教育と人権Ⅱ	本講義は、日本の過去の15年戦争と向き合い、教育と人権という観点から、さまざまな教訓をひきだ出したいと考察を進めていきたい。具体的には、沖縄、朝鮮、中国等のアジア諸国と皇民化教育の実態に迫りたい。評価は主として小論文の作成を成績とする。（授業形態：講義）	

総合基礎教育科目	教育と社会Ⅰ	本講義は、教育が本来的に社会現象であり、根本的な社会機能の一つであるという観点について学び、教育は社会の発展に貢献しながらも、社会のあり方や動向によって影響されるということを理解すること第一の目的とする。教育は人間の望ましい成長発達を促進・支援するものである。このことを、社会とのかかわりの関連から見つめ、現代社会をどう捉えるかと言うこともねらいの一つである。評価については、定期試験を実施する。平常点と定期試験で評価をする。（授業形態：講義）	
	教育と社会Ⅱ	本講義は、教育と社会Ⅰに続いて教育現象を社会とのかかわりで考えるという観点にたって、地域社会や学校以外における教育現象などについて授業を進める。教育の対象者についても生涯教育、異文化社会における教育（南太平洋の教育）などについて、教育を社会的な観点から考える考え方を育成し、将来社会人となって、学校や教育現場の外側から正しく教育を見つめる目を養って行くことを目標とする。評価については、定期試験を実施する。平常点と定期試験で評価をする。（授業形態：講義）	
	青年と社会	本講義は、主に社会学的なアプローチによりながら、現代日本における青年のおかれた諸状況について、理解を深めることを目標とする。具体的にとりあげるトピックスは、学校教育と学歴主義、逸脱行動、若者の友人関係、就職、結婚などである。これらの諸テーマについて検討を加えていくことをとおして、履修者自身の人生のあり方について考えるための手がかりを提供できるような授業になることを目指している。評価は、平常点と期末筆記試験の評価とを総合して最終評価とする。（授業形態：講義）	
	生活世界の探究	我々の日々営んでいる日常性のあり方そのものが本講義のテーマである。主に社会学的なアプローチによりながら、そうした日常性のなかに隠れている現代社会の諸構造について理解を深めることが、本講義の目標である。具体的には、家族論や現代社会論として扱われてきたトピックスを中心にとりあげながら、そこに浮かび上がってくる課題や問題点について検討を加えていく。評価は、平常点と期末筆記試験の評価とを総合して最終評価とする。（授業形態：講義）	
	現代中国の政治	本講義は政治の角度から近代中国とりわけ改革開放政策が導入された以後の中国の現状と将来に視点を絞って、履修学生の中国を観察し、分析する能力を育成することを目標とする。具体的には中国の政治構造、行政の仕組み、立法のシステム、司法制度、国防政策、中央と地方との関係、外交政策などについて授業を進める。評価は ペーパー試験とレポート提出の併用に平常点を加味したうえで成績を評価する。（授業形態：講義）	
	現代中国の社会・経済	本講義は社会・経済の角度から近代中国とりわけ改革開放政策が導入された以後の中国の現状と将来に視点を絞って、履修学生の中国を観察し、分析する能力を育成することを目標とする。具体的には中国の経済構造、工業、農業等における経済改革の課題、環境問題と環境政策、一人っ子政策、戸籍制度、文化教育などなどについて授業を進める。評価はペーパー試験とレポート提出の併用に平常点を加味したうえで成績を評価する。（授業形態：講義）	
	数学Ⅰ	本講義では様々な学問の基礎として、数学的な概念や手法を理解することを目標とする。具体的には、高等学校で学習する内容から始めて、徐々に高度な話題へ移ってゆく。従って、高等学校で数学を学んでいる必要は必ずしもない。項目としては、数の概念から、 $n$ 進数、行列、統計学の基礎などを取り扱う予定でいる。評価としては、定期試験に加えて、演習結果・レポート課題の提出、出席状況や講義へ取り組み姿勢から総合的に行う。（授業形態：講義）	

数学Ⅱ	<p>本講義では、情報処理技術、情報ネットワークの発展に伴い、様々な分野で接する機会が多くなりつつある数学について学び、非常に合理的な 数学的な概念や手法を理解することを目標とする。具体的には、高等学校で学習する内容から始めて、徐々に高度な話題へ移ってゆく。また、前期開講の数学Ⅰと内容は重複していないので、数学Ⅰを履修している必要はない。項目としては、数列から関数、微積分までの解析学を取り扱う予定でいる。評価としては、定期試験に加えて、演習結果・レポート課題の提出、出席状況や講義へ取り組む姿勢から総合的に行う。(授業形態：講義)</p>	
生物と環境Ⅰ	<p>本講義は、環境と深く関わり合いながら進化してきた多種多様な生物群の仕組みと地球環境問題に関する概念を映像をも利用する中で解説し、明確にイメージ出来ることを目標とする。具体的には、地球環境問題、生物の歴史、細胞の構造と働き、陸上および水圏の生態系、生物の個体群、競争と共存、生物の環境への対応、ヒトと地球環境、微生物と物質循環である。テキストを指定しないので、講義に必ず出席することが必要であり、多くの学生に質問して対話することで、理解度を深める。成績評価は、出席状況、定期試験の総合評価による。(授業形態：講義)</p>	
生物と環境Ⅱ	<p>本講義は、物理的環境の中での生物作用という側面から生物の形質、安定性について、映像、具体例を示しながら説明する。また、人間活動が水圏、大気圏、土壌等の環境に与える影響を実際のデータにより解説し、環境汚染防止についての重要性について理解を深める。具体的には、生物と温度、水、酸素、光および時間、水圏の保全と管理、地球環境における森林の役割、現代技術と環境汚染、地球温暖化現象、廃棄物の現代、バイオマスエネルギー、有害物質の処理について授業を進める。進め方、および成績評価は(Ⅰ)と同様である。(授業形態：講義)</p>	
心理学Ⅰ	<p>本講義は、心理学の基礎的知識の習得と心理学では「こころ」とその反映である「行動」をいかに捉えようとするのかという方法論について理解を深めることを目的とする。心理学Ⅰでは心理学の主要領域のうち、「臨床心理学」「性格心理学」「発達心理学」を取り上げる。具体的には、心の健康の問題を不適応症状とその改善のための心理学的なアプローチである心理療法、性格の測定方法と規定因、発達の各段階の特徴と発達過程について映像教材などを用いながら述べていく。評価は出席状況、定期試験結果の総合評価による。(授業形態：講義)</p>	
心理学Ⅱ	<p>本講義は、心理学の基礎的知識の習得と心理学では「こころ」とその反映である「行動」をいかに捉えようとするのかという方法論について理解を深めることを目的とする。心理学Ⅱでは心理学の主要領域のうち、「認知心理学」「社会心理学」を取り上げる。このうち、認知心理学では簡単な実験などを通して、記憶や理解の情報処理のメカニズムを明らかにしていく。また、社会心理学では、社会の中での人の行動の特徴について理論と受講者の日常経験とを結びつけて述べていく。評価は出席状況、定期試験結果の総合評価による。(授業形態：講義)</p>	
科学史Ⅰ	<p>本講義は、古代から17世紀の科学革命期までの科学の歩みを学び、近代科学の成立過程や、科学的思考様式の形成過程を理解することを目標とする。具体的には、ギリシアの科学思想、錬金術の物質観、古代の医学・生理学、近代生理学の成立、天文学の革命、古代・中世の運動論、運動力学の革命、フロギストン説、化学革命、近代的原子論、科学的思考の類型、について、授業を進める。評価は、試験に平常点を加味して行う。(授業形態：講義)</p>	
科学史Ⅱ	<p>本講義は、18世紀以降の近現代の生命科学の進展を学び、現代の生物学の歴史的背景や生命観を理解することを目標とする。具体的には、近代分類学の成立、進化論の背景や先駆的理論、進化論の成立過程、自然発生説論争や前成説・後成説論争、細胞説、微生物学の誕生、発生学の進展、メンデル遺伝学や分子遺伝学の成立過程、現代進化論の動向、現代の生命観、について、授業を進める。評価は、試験に平常点を加味して行う。(授業形態：講義)</p>	



総合基礎教育科目	自然の探求Ⅰ	この講義のテーマは「星と宇宙」である。本講義では、「星と宇宙」について、太古から現在に至るまでの研究について理解することを目的とする。具体的には、星座と座標、地球と太陽系、宇宙を見る目、恒星の進化、ブラックホール、中性子星、宇宙の始まり、宇宙の構造、相対論的宇宙像、宇宙線、生命の起源と地球外知的文明の探査などについて授業を進める。評価は、定期試験に加えて、レポート課題など普段の授業への取り組みと出席状況から総合的に判断する。（授業形態：講義）	
	自然の探求Ⅱ	本講義では、科学の原点である物理学を学ぶ。現在は、多くの人々が物理学の恩恵を受けて生活している。様々な機器の背後にある科学を学び理解することで、より正しく、効果的・効率的な使用へとつながると考えられる。科学を正しく理解し、物事に疑問を持つ心を養うことを目的としている。具体的には、物理学の基礎的な話から始め、自然現象の解明、普段の生活への係わり合い、最先端の研究、未来の可能性へと話を広げていく。評価は定期試験に加えて、レポート課題など普段の授業への取り組みと出席状況から総合的に判断する。（授業形態：講義）	
	宗教と人間Ⅰ	本講義では、イスラームの開祖であり、宗教的達人の典型例といってもよいムハンマドという人間に、まずは迫り、その生涯を辿ることで、イスラームの成立史に対する理解力を養成することを目標とする。具体的には、イスラーム以前、イスラームの成立—ムハンマドの生涯—（家系、誕生～青年期、結婚、啓示、預言者・使徒としての出発、メッカでの布教、ヒジュラ、メディーナ憲章とその意義、メッカとの全面対決と勝利、ムハンマドの死）、聖典とその教えなどについて授業を進める。評価は定期試験、平常点から総合的に判断する。（授業形態：講義）	
	宗教と人間Ⅱ	本授業は、「宗教と人間Ⅰ」で学んだイスラームの成立後の展開を、近現代までも視野に収めて、たどることで、イスラームの本質に対する理解力を養成することを目標とする。また、その中で、イスラームを構成する基本的な諸要素についても触れておきたい。具体的には、正統カリフ時代、ウンマの特質、ウマイヤ朝、イスラーム帝国、近現代のイスラーム（パレスチナ問題、イスラーム原理主義）などについて授業を進める。評価は定期試験、平常点から総合的に判断する。（授業形態：講義）	
	現代社会の病理と問題Ⅰ	本講義は、犯罪・非行・自殺・売春・薬物濫用・離婚・精神障害・同性愛など、これまで伝統的に社会病理（社会問題）や家族病理（家族問題）あるいは個人の逸脱行動として捉えられてきた現象についての社会的諸側面を、＜アノミー＞（社会的無規範状況）や＜自由からの闘争＞（E. フロム）などのキーワードを元に掘り下げていく。具体的にはHIV/AIDSを取りあげ、HIV/AIDSの基礎概念、薬害エイズの諸相、性感染と性行動、について授業を進める。評価は平常点とレポート課題、試験による。（授業形態：講義）	
	現代社会の病理と問題Ⅱ	本講義は、犯罪・非行・自殺・売春・薬物濫用・離婚・精神障害・同性愛など、これまで伝統的に社会病理（社会問題）や家族病理（家族問題）あるいは個人の逸脱行動として捉えられてきた現象についての社会的諸側面を、＜アノミー＞（社会的無規範状況）や＜自由からの闘争＞（E. フロム）などのキーワードを元に掘り下げていく。具体的には自殺を取りあげ、自殺の諸相、遺書を通じた状況推測、自殺遺族の状況、自殺予防とうつ対策、について授業を進める。評価は平常点とレポート課題、試験による。（授業形態：講義）	
	人間と科学Ⅰ	本講義は、現在の地球の状況を、エネルギーや気象の観点から科学的に理解した上で、それらと関連する社会的・現代的問題についても、理解を深めていくことを目標とする。具体的には、地球の形と圏構造、地球の内部構造、大気と熱収支、エネルギーと文明、原子力発電の諸問題、地球のエネルギー資源、地球温暖化説、異常気象とその影響、地球の気候の形成、エル・ニーニョと気候変動、天気図の見方、日本の気候、について、授業を進める。評価は、試験に平常点を加味して行う。（授業形態：講義）	

総合基礎教育科目	人間と科学Ⅱ	本講義は、宇宙・地球・生命の起源と歴史を学び、現在生活している地球環境や、われわれ人類を含む生物体の由来を確認していくことを目標とするとともに、宇宙や地球や生命についての基礎知識を習得することも目標とする。具体的には、宇宙の始まり、地球の誕生、生命の誕生、生命の進化、生物の上陸、生物の大絶滅、地球の歴史、恐竜から哺乳類への歴史、鳥類や哺乳類の進化、人類の起源、人類の進化、ホモ・サピエンスの歴史、地層や化石と年代、について、授業を進める。評価は、試験に平常点を加味して行う。（授業形態：講義）	
	科学技術と環境問題Ⅰ	本講義は、本環境問題の解決が求められる現代において、どんな未来社会を構想し、自分は社会の中で何をやるのかを模索できる能力を育成することを目標とする。具体的には、「環境問題」とは何か、科学・技術の起源と自然環境、コロンブスの夢と現実、コペルニクスの「天球の回転について」、ガリレイの「機械の学問」、ファラデーの選択、科学・技術と産業の結合、「近代化」と科学技術などの科学技術の歴史を辿りながら授業を進める。評価は、レポート、定期試験から判断する。（授業形態：講義）	
	科学技術と環境問題Ⅱ	本講義は、今日の環境問題を考える上でキーワードにもなっているエネルギー、化学物質、持続可能な社会を取り上げ、科学技術の発展とどのような関わりにあるのかを理解・解決する能力を養成することを目標とする。具体的には、原子力利用の現状と課題、化学物質と環境問題（ベトナム枯れ葉作戦とダイオキシン問題、農業生産の「近代化」と農薬）、「持続可能な社会」における科学技術などについて授業を進める。評価は、レポート、定期試験から判断する。（授業形態：講義）	
	いのちの文化論Ⅰ	本講義は、生老病死の現在を扱う。具体的には臨床社会学の方法を用いながら<いのち>の観点から、さまざまな<こころ>をめぐる問題や、終末期医療・ホスピス運動・安楽死・尊厳死・脳死（臓器提供）・死の準備教育などの<死>をめぐる問題を取りあげる。これらのトピックスを中心に、できるだけ多くの最新情報をビデオ、その他のビジュアルな教材をなるべく多用しながら講義を進める。具体的には、<死>とは、終末期医療の実相、脳死・臓器提供、について授業を進める。評価は平常点とレポート課題、試験による。（授業形態：講義）	
	いのちの文化論Ⅱ	本講義は、生老病死の現在を扱う。具体的には臨床社会学の方法を用いながら<いのち>の観点から、さまざまな<こころ>をめぐる問題や、終末期医療・ホスピス運動・安楽死・尊厳死・脳死（臓器提供）・死の準備教育などの<死>をめぐる問題を取りあげる。これらのトピックスを中心に、できるだけ多くの最新情報をビデオ、その他のビジュアルな教材をなるべく多用しながら講義を進める。具体的には、<死>とは、死の準備教育、尊厳死と安楽死、について授業を進める。評価は平常点とレポート課題、試験による。（授業形態：講義）	
	現代科学論Ⅰ	本講義は、環境・資源エネルギーや、地球と気象の個別問題を学ぶことを通じ、現代の科学技術の発展の現状や問題点について、知識と理解を深めることを目標とする。具体的には、地球温暖化をめぐる諸問題、ダイオキシン、環境ホルモン、アスベスト被害、高速増殖炉と核燃料サイクル、燃料電池、氷河時代と気候変動、火山、マントル対流とプレートテクトニクス、について、授業を進める。評価は、試験に平常点を加味して行う。（授業形態：講義）	
	現代科学論Ⅱ	本講義は、生命科学や宇宙・地球・生命の歴史の個別問題を学ぶことを通じ、現代の自然科学の発展の現状や問題点について、知識と理解を深めることを目標とする。具体的には、遺伝子組み換え食品、ヒトゲノム、クローン、がんとエイズ、元素の起源、星の一生とブラックホール、スノーボールアース仮説、大絶滅と生物多様性、生物進化の証拠、地震、日本列島の構造と歴史、について、授業を進める。評価は、試験に平常点を加味して行う。（授業形態：講義）	

総合基礎教育科目	ジェンダー論Ⅰ	本講義は、ジェンダー論の基礎的な考え方・捉え方について講義を行い、ジェンダーに関する理解を深めることを目標とする。具体的には、ジェンダー論の基礎を解説したのち、各領域でジェンダーがどのように私たちの生活に関わっているかを、理論と共に日常生活の中にみられる「ことば」、「法律」、「家族」などの社会現象を提示しながら授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。（授業形態：講義）	
	ジェンダー論Ⅱ	本講義は、ジェンダー論Ⅰで学んだジェンダー概念をふまえた応用編と位置づけ、多様なメディアの中に描かれわれわれに影響を与えるジェンダーについての理解を深めることを目標とする。具体的には、本講義では、メディアに表象されるジェンダーに焦点をあて、戦いあるいはスポーツをテーマとしたテレビ番組（映画）などメディアを使用し、学生みずからジェンダー分析を行う。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。（授業形態：講義）	
	基礎演習	本演習は、大学で学ぶ目的を明確にし、大学での生活や学習にスムーズに適応して有意義な学生生活を過ごせることを目標とする。具体的には対人関係構築能力の育成やボランティアなどの社会との関わりを通して大学生としての自覚や社会貢献への意識を高める。新たな人間関係作りの場を提供するとともに、社会人としてのマナーを学ぶために日常作法についての実践的な学習も行う。また、専門的な学習への関心、意欲の向上を図るため、食に関する主体的な学習を支援する。評価は出席とレポートによる。（授業形態：演習）	
	情報処理演習Ⅰ	本演習は、管理栄養士に必要な情報処理の手段としてのコンピューターやネットワークの活用能力を育成することを目標とする。具体的には、情報化社会と情報技術（IT）、コンピューターとネットワークの基礎知識・技術、コンピューターとネットワークの基本操作法、基本的なアプリケーションソフトの操作技能、および栄養や保健に関する情報処理（情報の収集・分析・構成・発信など）の方法について授業を進める。評価は平常点50%、レポート課題点50%に配分し、合計した点数を基に行う。（授業形態：演習）	
	情報処理演習Ⅱ	本演習は、現代社会においてあらゆる職種に必要とされているコンピューターによる情報処理を学び、コンピューターの利用技術の向上を図るとともに、コンピューターの利用を通して栄養士業務を理解し、実践力を高めることを目標とする。具体的には、ワードによる帳票作成、エクセルによる表作成と数式・関数等を用いた表計算、各種調査実施後の集計処理法、献立作成ソフトによる栄養価算出、パワーポイントによる栄養指導教材作成などについて行う。評価は、実技試験、レポート、出席による。（授業形態：演習）	
	スポーツと健康Ⅰ	スポーツと健康Ⅰでは、レクリエーションとしてのスポーツ実技に取り組むことを通じて、健康の維持・増進を図るとともに、そのために必要な基礎理論について理解することを目標とする。具体的には、スポーツ科学、基礎体力養成の理論等について授業を進める。実技では、フィットネストレーニングおよびバドミントン、卓球を行う。健康の維持・増進のための運動の基本を学びながら、バドミントンや卓球の基礎、動作の習得、ルール理解、ダブルスのゲームへと授業を進める。評価は、実技による平常点を中心に評価し、あわせてレポート課題による評価も行う。（授業形態：講義・実技）	講義 15時間 実技 45時間
外国語教育科目	総合英語Ⅰ	本演習は、大学生に求められる総合的な英語力を身に付けるための第一段階として、聴解能力と文法力を育成することを目標とする。具体的には、毎時間200words前後の長さの英文の聞き取り練習をするとともに、聞き取り練習した英文を読み正しく理解するための英文法や語彙についても学習し、理解度・達成度をチェックするための小テストを行う。評価は、毎時間実施する小テストと中間・期末試験、平常点による。（授業形態：演習）	

外国語教育科目	総合英語Ⅱ	本演習は、英会話や英作文の基本になる英語の基本構文を学習し、英語のニュースやネイティブ・スピーカーとの会話を理解し、応答する力を育成することを目標とする。具体的には、毎時間、英会話の教材や英会話の基本構文をくり返し聴いて覚え、学生が生活のあらゆる場面で使用できるように授業を進める。また、各時間毎の理解度・達成度を計るための小テストを行う。評価は、小テストと中間・期末試験、平常点による。(授業形態：演習)	
	総合英語Ⅲ	本演習は、英文の正しい読解力を育成することを目標とする。具体的には、アメリカの普通の子供が高校を卒業するまでの生活を綴った長文を読み、内容を正しく理解するために文法や語彙について学ぶとともに、英語という言語の背景にある歴史・文化・習俗・生活についても理解を深めるように授業を進める。また、同じ英文の音声教材を使用してヒアリング能力のさらなる向上を図る。評価は、毎時間行う小テストと中間・期末試験、平常点による。(授業形態：演習)	
	総合英語Ⅳ	本演習は、英文を読んだり聴いたりして理解するだけではなく、学生が英文や会話で自己の意見を表白することが出来る力の育成を目標とする。具体的には、時間毎に学生にとって身近なテーマや時事的なテーマを決めて、それに関するネイティブのやり取りをCDで聴いて内容を理解するとともに、学生はそのテーマについて異論・反論を含めた意見を英文で書き、また英語で述べる訓練をする。評価は、小テスト、中間・期末試験、平常点による。(授業形態：演習)	
	会話英語Ⅰ	本演習は、日常生活に必須の基本的な会話表現をトレーニングして、日常会話がスムーズに話せる会話力を身に付けることを目標とする。具体的には、英語の発音やイントネーションに慣れるために、基本的な英語表現を繰り返し声に出して練習し、次いで、教師と学生の間で、また、学生同士で日常的な会話が英語で出来るように練習する。評価は、学生の積極的な授業への参加を重視し、平常点50%、筆記試験25%、会話テスト25%とする。(授業形態：演習)	
	会話英語Ⅱ	本演習は、会話英語Ⅰの発展形であり、基本的な会話表現を応用して、日常会話がより自発的にできる会話力を身に付けることを目標とする。具体的には、英語が話されるシチュエーションを複雑にしたり、いくつかのシチュエーションを組み合わせたりして、どのような状況にあっても、英語で柔軟に対応できるように練習する。評価は、学生の積極的な授業への参加を重視し、平常点50%、筆記試験25%、会話テスト25%とする。(授業形態：演習)	
	会話英語Ⅲ	本演習は、学生が、個人的な事柄はもとより、日本の社会や文化などについても、英語で外国人に伝えられるだけの英語力を身に付けることを目標とする。また、外国人が話す同様の内容の英語が聞き取れる聴解力を身に付けることが目標である。具体的には、学生に毎時間話すテーマを決めさせて、口頭で発表させる。また、英文の音声教材を使用してヒアリングを訓練する。評価は、学生の積極的な授業への参加を重視し、平常点50%、筆記試験25%、会話テスト25%とする。(授業形態：演習)	
	会話英語Ⅳ	本演習は、会話英語Ⅲをさらに発展させて、学生が相手と相互に英語で意見を述べあい、本当の意味での相互理解ができるだけの英語力を身に付けることを目標とする。具体的には、英字新聞、テレビ、映画、インターネットなどを利用しながら、それらから得た情報などを元に、教員も含む複数の学生の間で英語で意見を述べたり戦わしたりする。評価は、学生の積極的な授業への参加を重視し、平常点50%、筆記試験25%、会話テスト25%とする。(授業形態：演習)	

外国語教育科目

資格英語Ⅰ	本演習は、TOEICテストの試験問題を利用して、学生の英語力を向上させることを目標とする。具体的には、学生のほとんどがTOEIC試験未経験者であることから、TOEICテストにおいて高得点を取るためにとくに大切な、語彙、リスニング、文法の問題練習を毎時間起きない、進歩の状況を実際にTOEICテストを受験してチェックする。評価は、複数回行う小テストと2回の語彙試験、平常点（出席と授業への積極的な参加）で出します。（授業形態：演習）	
資格英語Ⅱ	本演習は、資格英語Ⅰで受験したTOEICテストの結果を踏まえ、学生一人一人の文法とリスニングスキルの向上、とくに弱点の克服を目標とする。具体的には、とくに日本の学生が苦手なリスニングを強化するために、文法力と語彙力を高めるための練習問題に取り組みつつ、生きた英語を学ぶための音声教材である映画なども視聴する。評価は、複数回行う小テストと2回の語彙試験、平常点（出席と授業への積極的な参加）で出す。（授業形態：演習）	
資格英語Ⅲ	本演習は、公務員試験の英語（文章理解）とTOEICのリスニング能力の育成を目標とする。具体的には、解答へのコツの確認や、解答に必要な単・熟語、構文のチェックしていく方法で進めていき、就職活動時に必要とされているTOEIC450点以上取れるように、TOEICの実践的問題を通して英語力を鍛えていく。授業の小テスト、定期試験、レポート、授業態度で総合的に評価する。（授業形態：演習）	
資格英語Ⅳ	本演習は、資格英語Ⅲ（前期）から引き続き、公務員試験の英語（文章理解）とTOEICのリスニング能力の育成を目標とする。具体的には、解答へのコツの確認や、解答に必要な単・熟語、構文をチェックしていく方法で進めていき、就職活動時に必要とされているTOEIC450点以上取れるように、TOEICの実践的問題を通して英語力を鍛えていく。授業の小テスト、定期試験、レポート、授業態度で総合的に評価する。（授業形態：演習）	
ドイツ語Ⅰ	本演習は、初級文法、ドイツ語会話をもとに、ドイツの歴史や文化、ドイツ事情等にもふれながら、浅く広く、ドイツ語とドイツに興味を育成することを目標とする。具体的には、ドイツ語の特徴、アルファベット、発音、数詞、簡単なドイツ語会話、基本的な動詞の現在人称変化、不規則動詞の現在人称変化、命令形、定動詞の位置（正置と倒置）、名詞の性、定冠詞と名詞の格変化、定冠詞類の格変化、その他、について授業を進める。評価は平常点（30%）、レポート課題点（20%）、定期試験（50%）等で総合的評価による。（授業形態：演習）	
ドイツ語Ⅱ	本演習は、発音の間違いを直しつつ、多少きたない発音でも、まずはドイツ人に通じるドイツ語を目標とする。個々の単語を正確に発音出来なければならないことはいうまでもないが、聞き手にわかりやすく通じるように、意味をとりつつ、句や文で、強調やイントネーションにも注意をはらいつつ、発音の練習を続ける。具体的には、動詞の三変形、弱変化動詞、強変化動詞、混合変化動詞、過去人称変化、未来形、形容詞の変化、その他、について授業を進める。評価は平常点（30%）、レポート課題点（20%）、定期試験（50%）等で総合的評価による。（授業形態：演習）	
ドイツ語Ⅲ	本演習は、これまで習った初級文法を復習しつつ、発音にも注意をはらいつつ、初級文法を完了することを目標とする。読解力をつける為、ドイツ語の簡単な読み物もこれまで以上に多く練習していく。又、ドイツ語会話についても、ビデオを使用して、少しずつ練習していき、ドイツ映画も見る予定でいます。具体的には、話法の助動詞、分離動詞、非分離動詞、再帰動詞、非人称動詞、定関係代名詞、不定関係代名詞、指示代名詞、その他、について授業を進める。評価は平常点（30%）、レポート課題点（20%）、定期試験（50%）等で総合的評価による。（授業形態：演習）	

外国語教育科目	ドイツ語Ⅳ	本演習は、初級文法を早く体得し、自由に駆使できるようになるため、練習を通じて能力アップをはかる。ドイツ語文法もドイツ語講読も初級から中級へ少しずつ移行していき、ドイツ会話についても、能力のアップをはかる。常に「生きたドイツ語、生きたドイツ」を念頭に適宜、プリントやビデオを使用したり、ドイツ映画も見たりして、生のドイツ語のスピードにもふれ、ドイツ事情やドイツ文化についても講義する。具体的には、講読演習、基礎ドイツ語会話、ドイツ文化事情、その他、について授業を進める。評価は平常点(30%)、レポート課題点(20%)、定期試験(50%)等で総合的評価による。(授業形態：演習)	
	フランス語Ⅰ	本演習は、仏語初級文法の習得および仏語学習を通じてフランス文化、ヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とする。Ⅰではとりわけ仏語に慣れ親しむことが重要である。具体的には、この観点からして、i) 文字を見ずに聞き取りに徹する。ネイティブの発話を繰り返す練習、ii) 要となる文法事項に関する、筆記、口述、聴解各面からの演習を進める。評価は平常授業における取組および小テスト、定期試験による。(授業形態：演習)	
	フランス語Ⅱ	本演習は、仏語初級文法の習得および仏語学習を通じてフランス文化、ヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とする。Ⅱでも仏語に慣れ親しむことは重要である。具体的には、Ⅰのときと同様、i) 文字を見ずに聞き取りに徹する。ネイティブの発話を繰り返す練習、ii) 要となる文法事項に関する、筆記、口述、聴解各面からの演習を進める。評価は平常授業における取組および小テスト、定期試験による。(授業形態：演習)	
	フランス語Ⅲ	本演習は、仏語中級文法の習得、仏語テキストの精読および仏語学習を通じてフランス文化、ヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とする。具体的には、聞き話す能力は読むための基礎であるという考え方に立って、聞き取りを中心に構成された教科書を使用し、中級文法事項の学習を進める。ただし辞書を引き読む練習もあわせて行う。評価は平常授業における取組および小テスト、定期試験による。(授業形態：演習)	
	フランス語Ⅳ	本演習は、仏語中級文法の習得、仏語テキストの精読および仏語学習を通じてフランス文化、ヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とする。具体的には、ⅠⅡⅢで培った仏語力を講読の場面に使用して進める。ヨーロッパ文化の理解に役立つような様々な分野のテキスト、受講者の専門分野に関連するテキストも講読する。評価は平常授業における取組および小テスト、定期試験による。(授業形態：演習)	
	中国語Ⅰ	本演習は、初めての中国語の勉強について、先ず、中国語の表音ローマ字(ピンイン)から発音の学習を始める。中国語に対する興味・関心を高めながら、発音を中心とした中国語の基礎を身につけ、簡単な日常会話と文法の習得を目標とする。具体的には、中国語を学ぶ重要性和現実性を認識し、ピンインと声調をマスターする。各自の発音チェックを重点に、聞き取りテストを随時行いながら、授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。(授業形態：演習)	
	中国語Ⅱ	本演習は、初歩的な中国語の勉強を経て、本格的な文法の学習を始める。初級中国語の基礎語彙や簡単な会話モデルを身につけ、基本的な文法事項の理解を目標とする。具体的には、中国語Ⅰで学んだ発音の復習と基本文型を確認することによって、ピンインと漢字の転写を習得し、表現文型を自由自在に書き換え、簡単な自己紹介と挨拶を覚える。勉学のサポートを目的とした単元ごとの練習問題及び小テストを行いながら、授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。(授業形態：演習)	

外国語教育科目	中国語Ⅲ	本演習は、初級中国語を復習するとともに、中級レベルの語彙と文法事項及び実用会話の学習を始める。日本語と中国語の表現を対照しながら構文に対する読解力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を目標とする。具体的には、応用文型や会話モデルを発話練習によって覚え、同時に正しい語順及び文法を表す「虚詞」の働きを理解する。中国語から日本語への翻訳練習を行いながら、授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。(授業形態：演習)		
	中国語Ⅳ	本演習は、今まで学んだ中国語の聞く・話す・読む・書く知識を使い、うまく運用できる総仕上げの学習を始める。中国語の語彙・文法及び語順の運用能力を身につけ、日本語から中国語への翻訳の習得を目標とする。具体的には、常套句を覚え、中国語の語順を整理し、日本の常用漢字と中国の簡体字の字形上の区別を確認しながら、簡単な短文翻訳の練習と中国語検定試験対策の準備を行う。中国語に対する総合的な理解を得るために視聴覚教材を介して、授業を進める。評価は、出席、レポート、定期試験結果の総合評価による。(授業形態：演習)		
専門教育科目	導入分野	食生活論	本講義は、日本人の食生活の歴史的変遷や食生活と健康の関わりについて理解し、豊かな食生活の本質についての考察を通して、管理栄養士としての資質を養うことを目標とする。具体的には、日本人の「食」の歴史と諸外国の影響、日本型食生活の形成と風土との関わり、食料の生産・流通・消費と地産地消、食の営みの基本となる食欲・食嗜好の形成と生活習慣病との関連等について講ずる。評価はレポート及び筆記試験による。(授業形態：講義)	
		管理栄養士概論	本講義は、管理栄養士をめざす気持ちを育み、国際社会も視野に入れて栄養問題を考える力を養うことを目標としている。具体的には、管理栄養士の使命と役割、栄養学発展の歴史、国際的な食料・栄養の現状と課題について学習する。評価は、筆記試験及び課題提出による。(授業形態：講義)	
		基礎化学	本講義は、高校教育から大学における専門教育への円滑な連続性と統一性の構築に必要な基礎知識を習得することを目標とする。管理栄養士養成過程においては、生命科学に関わるさまざまな教科目を学習しなければならない。その第一歩として、生体成分や食品成分の理解に必要な生物学の基礎を学び、生命科学の基本的知識を学ぶ。具体的には、生体の基本的な構造と機能、生体の調節機構、代謝、発生・分化、誕生・成長・老化等の知識の習得をめざし講義を進める。評価は筆記試験ならびに授業態度による。(授業形態：講義)	
		有機化学	本講義では、官能基の特性を結合と構造、反応性などから解説し、官能基の変換を通して種々の有機化合物の合成を理解することを目標とする。具体的には、官能基の概要、命名法、アルカン、アルケン、アルキン、ハロゲン化合物、アルコール、フェノール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸とその誘導体、ニトロ化合物、アミン、について授業を進める。評価は講義への出席と筆記試験(中間試験及び期末試験)により行う。(授業形態：講義)	
		基礎生物学	本講義は、高校教育から大学における専門教育への円滑な連続性と統一性の構築に必要な基礎知識を習得することを目標とする。管理栄養士養成過程においては、生命科学に関わるさまざまな教科目を学習しなければならない。その第一歩として、生体成分や食品成分の理解に必要な生物学の基礎を学び、生命科学の基本的知識を学ぶ。具体的には、生体の基本的な構造と機能、生体の調節機構、代謝、発生・分化、誕生・成長・老化等の知識の習得をめざし講義を進める。評価は筆記試験ならびに授業態度による。(授業形態：講義)	

	導入分野	統計学演習	本演習は、栄養調査や実験などで得られたデータを統計学的に正しく比較・検討することを習得し、対象の真の姿やEBMにおける方向性を見据える力を養成することを目標とする。具体的には、統計学の基礎概念を徹底的に理解し、管理栄養士の実務における統計学的能力を発揮できるように、健康や食生活などに係わるデータを使い、検定法等を説明する。さらに栄養情報の収集や処理についての知識と技術の習得をめざし演習を進める。評価は実技、筆記試験ならびに授業態度による。(授業形態：演習)	
		カウンセリング演習	本演習は、栄養指導等における対人援助の基礎理論となる臨床心理学の知見をもとに、心理的諸問題とその背景となる人格・対人関係を理解し、解決のための治療援助の理論と技法を習得するとともに、各自の専門性に応用可能な援助的関与を豊かにするため自分や他者の意識・行動の特徴を理解する視点を養うことを目標とする。具体的には、心理的諸症状とその要因、カウンセリングの理論・技法およびロールプレイ実習、及び自己・他者理解を深めるための実習について授業を進める。評価は、授業内実習後の小レポート、及び期末レポートによる。(授業形態：演習)	
専門教育科目	社会環境と健康	社会福祉概論	本講義は、社会福祉に関する基本的な知識を獲得するとともに、共に支えあい健康で文化的な生活を送ることができるような地域生活支援のあり方についての学習を通して、福祉の現場における食に関わる専門職の役割を理解することを目的とする。具体的には、わが国の社会福祉の基本理念や体系、社会福祉制度や福祉サービスの内容、少子高齢化の進行や経済的貧困層の拡大等わが国の福祉を取り巻く問題についての授業を行う。評価は、筆記試験に判断による。(授業形態：講義)	
		健康の概念と行政、環境	本講義は、管理栄養士の実務に必要な公衆衛生の概念の理解と現状に応じた知識を習得することを目標とする。公衆衛生学は保健、医療、福祉などを主とした社会の要請に応じて幅広く発展してきた。具体的には、公衆衛生の概念、方法論、ヒトをとりまく環境保健の現状と対策、健康維持に関する行政・地域保健の仕組みとそれを基盤とした母子保健、老人保健の重要性などについて学ぶ。さらにわが国の健康問題について理解し、現在・将来遭遇する健康問題への対処法を習得する。評価は筆記試験・授業態度による。(授業形態：講義)	
		公衆衛生と疾病予防	本講義は、管理栄養士の実務に必要な公衆衛生の概念の理解と現状に応じた知識を習得することを目標とする。具体的には、学校保健・産業保健における現状ならびに疾病予防とその管理、法規を学ぶ。さらにわが国の疾病構造に大きく影響している感染症、生活習慣病等の疾病の現状を把握し、社会としての予防法あるいは対処法を理解する。さらに保険制度、医療制度、社会保障制度を理解することで、国民の健康を維持していく手法を学ぶ。評価は筆記試験・授業態度による。(授業形態：講義)	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学Ⅰ	本講義は、コ・メディカルである管理栄養士が、健康であることや生活習慣病などの疾病の成り立ちについて考えるうえで基本的知識である解剖生理学を学んで、人体の構造と機能について理解することを目標とする。具体的には、人体の構成、細胞・組織・器官・器官系、恒常性とフィードバック機構、消化器系、心臓血管系とリンパ系器官、腎・尿路系などの構造と生理機能について講義を進める。評価は授業態度、筆記試験と重要課題のレポート等による。(授業形態：講義)	
		解剖生理学Ⅱ	本講義は、コ・メディカルである管理栄養士が、特に問題となる生活習慣病などの治療と予防に取り組むことができるように、必要な基本的知識となる解剖生理学を学んで、人体の構造と機能について理解することを目標とする。具体的には、解剖生理学Ⅰに引き続き、人体における内分泌系、神経・精神系、感覚器系、呼吸器系、血液・造血器・リンパ系、運動器系、生殖器系などの構造と生理機能について講義を進める。評価は授業態度、筆記試験と重要課題のレポート等による。(授業形態：講義)	
	専門基礎分野			



専門教育科目 専門基礎分野 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学実験	<p>本実験は、生体はその恒常性を維持するために、さまざまな器官、臓器がその役割を担いつつ、かつ相互に連携し、平衡して働いていることを包括的に理解することを目標とする。具体的には、生命現象の仕組みを理解するために、解剖生理学実験では各個人の身体を用いて、さまざまな生理機能を学ぶ。体脂肪・筋肉の測定、基礎代謝量の測定、血圧・末梢血流量の測定、肺活量の測定、血液・尿の検査を行なうことで、循環器系、呼吸器系、泌尿器系等の仕組みを理解する。評価はレポート・授業態度による。(授業形態：実験)</p>	
	疾病の成り立ち I	<p>本講義は、管理栄養士が、生活習慣病の治療や予防における栄養サポートチームの主要メンバーであり、また特定保健指導でもその役割が期待されているため、特に問題となる疾病の病態について理解することを目標とする。具体的には、基本的な病理学的事項と臨床的な診察法、検査法や治療法について概説し、栄養障害と代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、腎・尿路疾患などの栄養学的にも重要な疾患の成因・診断・治療について授業を進める。評価は授業態度、筆記試験と重要課題のレポート等による。(授業形態：講義)</p>	
	疾病の成り立ち II	<p>本講義は、管理栄養士が、生活習慣病の治療や予防やメタボリックシンドロームへの対応にその役割を果たすために、特に問題となる疾病の病態について理解することを目標とする。具体的には、基本的な病理学的事項と臨床的な診察法、検査法や治療法について概説し、栄養障害と代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、腎・尿路疾患などの栄養学的にも重要な疾患の成因・診断・治療について授業を進める。評価は授業態度、筆記試験と重要課題のレポート等による。(授業形態：講義)</p>	
	生化学	<p>本講義は、生物(特にヒト)の健康や栄養、疾病に関わる様々な生命現象を化学的あるいは物理化学的に理解することを目標とする。特に、物質を中心とした生化学について講義を行う。具体的には、生体の成り立ちと生体分子、生体の化学組成、タンパク質化学、酵素、脂質の代謝、糖質の代謝、タンパク質・アミノ酸代謝、ヌクレオチドと核酸、生体エネルギー産生の仕組みについて授業を進める。評価は講義への出席と筆記試験(中間試験及び期末試験)により行う。(授業形態：講義)</p>	
	生化学実験 I	<p>本実験では、生化学の講義で学んだ生体物質や代謝、酵素等の知識を基に生体の構成成分の解析方法や酵素の機能に関する実験を行い、これら実体験により生化学の知識をより深く理解することを目標とする。具体的には、生化学実験の基礎知識と基本操作、アルカリフォスファターゼを用いた酵素活性測定と反応速度論、グリコーゲンを用いた構成糖分析の実験を行う。評価は出席を含めた平常点、レポートを総合して行う。(授業形態：実験)</p>	
	生化学実験 II	<p>本実験では、生化学実験 I に引き続き生体の構成成分の分離や同定に関する実験を行い、これら実体験により生化学の知識をより深く理解することを目標とする。具体的には、生化学実験の基礎知識と基本操作、生体成分の分析(リゾチーム、脂質、DNA)、糖尿病モデルを用いた実験(尿素、血中グルコース濃度測定)を行う。評価は出席を含めた平常点、レポートを総合して行う。(授業形態：実験)</p>	
	細胞生化学	<p>本講義は、様々な生命現象を化学的あるいは物理化学的に理解することを目標とする。特に、生体成分の代謝、遺伝子の発現及び分子生物学の方法論について講義を行う。具体的には、アミノ酸の酸化と尿素の生成、酸化的リン酸化と光リン酸化、糖質の生合成、脂質の生合成、アミノ酸、ヌクレオチド及び関連物質の生合成、哺乳類の代謝とホルモンによる調節、遺伝子と染色体、DNA代謝、RNA代謝、タンパク質代謝、遺伝子発現代謝、組換えDNAについて授業を進める。評価は講義への出席と筆記試験(中間試験及び期末試験)により行う。(授業形態：講義)</p>	

専 門 教 育 科 目  専 門 基 礎 分 野  食 べ 物 と 健 康	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病 の 成 り 立 ち	臨床生化学	本講義は、臨床の場におけるNSTやチーム医療の一員としての管理栄養士に必要な臨床生化学の知識の習得、医師との協力体制をこなす治療上の適応力を身につけることを目標とする。具体的には生化学的な機能異常に基づく代表的な疾患、とくにメタボリック症候群の基礎疾患である生活習慣病について、栄養との関連にターゲットをあてて学ぶ。病態の鑑別、治療の良・不良および予後の判定法を学び、カルテの検査値等から疾患の特徴、検査所見、重症度などを判定できる力を習得する。評価は筆記試験・授業態度による。(授業形態：講義)	
		食品学総論	本講義は、食品の分類と栄養素、成分を解説し、各食品の特性や成分変化を理解することを目標とする。具体的には、人間と食物、食生活と健康、食品の分類、食品成分表と栄養素、食品成分の化学と性質、植物性食品の成分特性、機能特性、動物性食品の成分特性、機能特性、その他の食品の成分特性、機能特性、機能性食品による各種疾患への効果、食品の成分変化について授業を進める。評価は講義への出席と筆記試験(中間試験及び期末試験)により行う。(授業形態：講義)	
		食品学各論	本講義は、植物性食品、畜産食品、水産食品、微生物を利用食品、加工食品、食品の機能性や規格等に関しても理解を深めることを目標とする。具体的には、食品の分類、植物性食品、畜産食品、水産食品、微生物利用食品、その他の食品等の生産と消費、分類・種類と性状、成分、保存と加工、三次機能(機能性)、特別用途食品(病者用食品、妊産婦、授乳婦用粉乳、乳児用調製粉乳、えん下困難者用食品、特定保健用食品)、サプリメント、食品の規格(国内規格、国際規格、各種表示)について授業を進める。評価は筆記試験による。(授業形態：講義)	
		食品学実験	本実験は、食品学の講義で学んだ食品に関する知識を基に、食品に含まれる栄養成分の定量法や食品のもつ抗酸化機能の測定方法を学び、食品の品質管理や成分分析を行える人材の育成を目標とする。具体的には、容量分析の基礎、中和法滴定法・酸化還元法滴定法、水分及び灰分の定量、脂質の定量、ビタミンの定量、糖質の定量、タンパク質の定量、食用色素の分析、野菜・果実の抗酸化活性測定について実験を行う。評価は出席を含めた平常点、レポートを総合して行う。(授業形態：実験)	
		食品加工学	本講義は、食品に何らかの処理を施して、その食品の栄養的価値並びに保存性を高めるための理論と方法を学び、食品の利用や判別能力を育成することを目標とする。具体的には、食品加工の意義、食品の素材や加工特性、食品劣化の要因、食品の加工法・貯蔵法(穀類、砂糖とその他の甘味料、食用油脂、大豆、果実、野菜、缶・瓶詰め、レトルトパウチ食品、乳、卵肉、海藻、海産物、嗜好飲料、味噌、醤油、食酢、コンビニエンスフーズ、ファブ리케이션ドフーズ、加工食品の今後)について授業を進める。評価は筆記試験による。(授業形態：講義)	
		食品加工学実習	本実習は、食品の特徴、加工に伴う栄養成分・組織変化、加工食品の貯蔵・保存における役割、製品の品質評価により品質鑑別能力の向上、製造器具、機械の取り扱い、食品製造時の包装・衛生技術、食品の生産、製造の流れなどの理解を目標とする。具体的には、豆腐、糸引き納豆、味噌(麴の品質評価)、ヨーグルト(牛乳の殺菌)、りんごジャム、生餡、練り羊羹、こんにやく、惣菜缶詰、さつま揚げ、ベーコン、ピーナツクリーム、漬物(キムチ漬け)、うどん・中華麺、ふりかけ、中濃ソース、ゆず味噌の製造について授業を進める。評価はレポートによる。(授業形態：実習)	
		調理科学	本講義は、食品が食べ物として摂取されるまでの調理過程について科学的な理論付けを行い、対象に応じた健康的でおいしい調理実践を展開するための基本的な知識の習得を目標とする。具体的には、動物性・植物性食品や成分抽出素材の調理性、非加熱・加熱調理操作による食品成分の化学的・物性的な変化と栄養・嗜好性・安全性等との関わり、調理機器・調理器具の特性等について講ずる。評価は筆記試験による。(授業形態：講義)	

専門教育科目 専門基礎分野 食べ物と健康	基礎調理実習 I	<p>本実習は、食材の知識を深めまた、調理理論に裏づけされた調理法及び調理技術を養うことを目標とする。具体的には、日本料理の基礎的な調理技術と料理用語の学習を主軸に、色合い、食感、調味と食材の取り合わせ、盛り付け方など基本的な調理方法から応用力が身に付くように実習を進める。調理器具の使用方法から基本的な食材の調理方法の特徴を学び、様々な調理に応用できる基礎を作る。評価は野菜の小口切り及びせん切りの実技試験、筆記試験、レポートによる評価とする。(授業形態：実習)</p>	
	基礎調理実習 II	<p>本実習は西洋料理と中国料理の基本的な調理操作や基本の献立構成について理解することを目標とする。具体的には、日常食と供応食についてそれぞれの調理法や食材を取り上げて学習を進める。西洋料理では食品についての知識を広げるとともに、調理方法や献立の工夫などを習得する。中国料理では、食文化と特徴を学びまた、調理方法、調理器具、香辛料や調味料なども学習する。大量調理に応用でき、嗜好性と健康に配慮した献立についても学習する。評価は出席とレポートによる。(授業形態：実習)</p>	
	応用調理実習	<p>本実習は、日本型食生活を形成する食材で健康上の利点が大きいかかわらず、現在の食生活で不足しがちな食品を取り上げ、さまざまな料理法での実習を通して、対象に応じた健康的で嗜好性の高い献立作成能力を育成することを目標とする。加えて、学生にそれらの食材を用いた料理を料理書等で検索させ、応用力の育成を図る。さらに、料理を専門とする講師による洗練された和洋中の料理献立の実習を通して、料理への造詣を深めるとともに、食事マナーについて学習する機会とする。評価はレポートによる。(授業形態：実習)</p>	
	食事設計実習	<p>本実習は、専門分野(給食経営管理実習、応用栄養学実習、臨床栄養学実習など)における基礎となるものであり、食生活の基本となる適切な食事についての知識や献立を作成する力、献立を評価する力を養うことを目標とする。具体的には、日本食品成分表、食事摂取基準の使用方法、食品構成、献立作成方法、調味割合・栄養価・購入量の算出方法について、小テストを組み込み学習の定着を図りながら授業を進め、献立の評価が行える知識が習得できるよう、段階的に学習を進める。評価は、課題と筆記試験による。(授業形態：実習)</p>	
	食品衛生学	<p>本講義は、食の安全性・健全性の重要性を認識し、食品衛生の基本と食品を取り扱う現場での管理方法について修得することを目標とする。具体的には、食品衛生法、食品衛生行政、食品の変質の判別と防止法、食中毒の発生状況、マスターテーブル法、細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、動物性自然毒、植物性自然毒、化学性食中毒、かび毒、有害化学物質、食品成分変化により生ずる有害物質、有害物質の移動と生物濃縮、異物、食品添加物の概要・安全性評価、主な寄生虫症、器具・容器包装素材、HACCP、ISO、PL法などについて授業を進める。評価は筆記試験による。(授業形態：講義)</p>	
	食品衛生学実験	<p>本実験は、食品衛生分野の基本的な検査法、実際的な実験技術、衛生管理を指導する者としての知識・技術・問題解決能力を育成することを目標とする。具体的には、水質試験検査、食器器具等の洗浄度検査、食品添加物分析検査、培地の調製と滅菌、細菌標準菌株の純培養、平板培養法による細菌の増殖・グラム染色法と形態観察、食品の一般生菌数測定、混積培養法と生菌数算出、手指の適切な洗浄法、スタンプ・ATP法による細菌簡易検査、給食・食品製造現場の衛生管理について授業を進める。評価はレポートによる。(授業形態：実験)</p>	

専門教育科目	基礎栄養学	基礎栄養学	本講義は、栄養学分野の基礎的な知識を習得するため、ヒトの生命維持に関わる各栄養素の機能および栄養素の体系的な関わりについて知識を養い、健康の保持・増進、疾患の予防・治療における栄養の役割について理解することを目標とする。具体的には、栄養の概念および意義や栄養学の歴史、五大栄養素である糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンおよび水や電解質についてそれぞれの種類や特徴・機能、各栄養素が関わる疾患などについて講義を進める。評価は、授業態度および講義中の小テストや定期試験による。(授業形態：講義)	
		基礎栄養学実験	本実験は、基礎栄養学および代謝栄養学で得た知識や他の基礎実験などで習得した技術を基に、栄養素の摂取による体内における代謝・吸収から排泄までの流れについて理解を深めるため、栄養素と生体の関わりを自分の目で確かめ、科学的にとらえられる能力を育成することを目標とする。具体的には、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン・ミネラルの定性分析、消化酵素、エネルギー代謝測定、血液・尿検査などについて講義・実験を行う。評価は、授業態度、レポート、試験による。(授業形態：実験)	
		代謝栄養学	本講義は、各栄養素の機能を理解した上で、栄養素の相互関係および細胞レベルから臓器の関連について理解を深め、栄養素の消化・吸収からエネルギー・栄養代謝について全体像を把握捉えられることを目標とする。具体的には、摂食行動、消化・吸収と栄養素の体内動態、主要栄養素の糖質、脂質、タンパク質の消化・吸収と代謝、分子栄養学、遺伝子発現と栄養について講義を進める。評価は、授業態度および講義中の小テストや定期試験による。(授業形態：講義)	
	専門分野	応用栄養学 I	本講義は、対象別の身体的・生理的状态や食生活状況を的確に評価・判定し、その結果に基づいて、健康の保持・増進、QOL向上を図るための適切な食生活管理や改善の方策について理解を深めることを目標とする。併せて、妊娠・授乳期、乳児期の身体的特徴と、それぞれの身体状況や栄養状態に応じた適切な栄養・食事管理に関する知識の習得を目標とする。評価は筆記試験により行う。(授業形態：講義)(オムニバス方式/全15回)  (④ 影山光代/5回) 栄養マネジメント(栄養アセスメントの方法・指標、栄養マネジメント計画の作成、食事摂取量の把握)の過程と方法を担当する。  (⑦ 古閑美奈子/5回) 妊娠・授乳期、乳児期の食生活の現状と課題、それらと関連する疾病の特徴と疾病予防のための食事のあり方、対象別の栄養アセスメントと栄養ケアを担当する。  (⑫ 木下智恵/5回) 妊娠・授乳期、乳児期の身体的・生理的特徴を担当する。	オムニバス方式
		応用栄養学 II	本講義は、幼児期・学童期・思春期、成人期の身体的特徴と、食習慣・生活習慣の特徴について理解し、それぞれの身体状況や栄養状態に応じた栄養・食事管理に関する知識の習得を目標とする。評価は筆記試験により行う。(授業形態：講義)(オムニバス方式/全15回)  (① 松本晴美/7回) 幼児期・学童期・思春期の身体的特徴、食生活の現状と栄養・健康、保育所給食・学校給食と食育、食生活に対する自己管理能力を担当する。  (⑦ 古閑美奈子/8回) 成人期の身体的・生理的特徴、幼児期・学童期・思春期、成人期の食事摂取基準及び栄養アセスメントと栄養ケアを担当する。	オムニバス方式
		基礎栄養学		

専門教育科目 専門分野 栄養教育論	応用栄養学	応用栄養学Ⅲ 本講義は、中年期・高齢期の身体的特徴と、食習慣・生活習慣の特徴について理解し、それぞれの身体状況や栄養状態に応じた適切な栄養・食事管理に関する知識の習得を目標とする。具体的には、中年期・高齢期の身体的・生理的変化、食生活の現状、それらと関連する疾病の特徴と疾病予防のための食事のあり方、後期高齢者の食事支援について授業を進める。また、生活習慣病予防及び高齢期のQOL向上のための運動の生理的意義について講ずる。評価は試験により行う。(授業形態：講義)	
	応用栄養学	応用栄養学実習 本実習は応用栄養学の知識を用いて、実習を通して各ライフステージにおける適切な栄養管理と食教育が出来る力を育成する。具体的には、乳児期食、幼児期食の献立作成、幼児期食の実習、学童期食の献立作成、学童期食グループ献立作成、学童期食の作成献立実習、中高年期食の実習、妊娠期食の献立作成、妊娠期食の実習、高齢期食の献立作成、高齢期食のグループ献立作成、高齢期食の作成献立実習について授業を進める。評価は出席とレポートによる。(授業形態：実習)	
	栄養教育論	栄養教育論 本講義は、栄養教育に関わる基礎学問領域についての概要を理解し、栄養教育に適切に活かすための「行動科学の基礎」および代表的な技法・技術について理解することを目的としている。具体的には、栄養教育の概念(定義・目的、歴史、法律、国民の健康と栄養の現状、食事摂取基準の考え方)、行動科学と教育(定義、基礎理論、行動技法、行動変容にかかわるモデル)、食行動変容と栄養教育(食行動の特性、習慣変容に必要な条件、セルフケア促進のための方法)等を学習する。評価は、筆記試験による。(授業形態：講義)	
	栄養教育論	栄養教育マネジメント 本講義は、栄養教育論において学習した基礎理論をもとに、適切な栄養教育を行うための栄養教育プログラミングの計画立案と実施、評価の一連の栄養教育をマネジメントとする方法を理解することを目的としている。具体的には、栄養アセスメントの方法(各種検査、臨床診査、食事調査法、情報収集)、栄養教育計画(教育目標の設定、教育計画)、栄養教育の方法(学習形態、教材、カウンセリング)、栄養教育の実施と評価の方法について学習する。評価は、筆記試験による。(授業形態：講義)	
	栄養教育論	栄養教育マネジメント実習 本実習は、栄養教育マネジメントサイクルを理解し、健康・栄養・生活習慣等を適正にアセスメントし、対象者個々の課題を踏まえた目標、計画、実施、評価を行える力の育成を目標としている。具体的には、生活習慣病が問題となる年齢層を対象として、対象に応じたアセスメントのための情報収集、課題の抽出、課題解決の優先性と目標決定、教育内容と指導案・教材の作成、栄養カウンセリングに基づいた栄養教育の実施と記録、評価と実施報告を各自が行う。評価は、レポートによる。(授業形態：実習)	
	栄養教育論	栄養教育実践論 本講義では、ライフステージ・ライフスタイル及び栄養教育の場に対応した栄養教育上の課題について把握するとともに、対象者のアセスメントの方法、目標の設定、効果的な学習形態、教材の選択、栄養教育実施上の配慮点、教育活動の評価方法についての学習を深めることを目標としている。具体的には、ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育、栄養教育の場に対応した栄養教育(学校、地域保健、産業保健、医療、福祉)、食環境づくりについて学習を進める。評価は、筆記試験による。(授業形態：講義)	
	栄養教育論	栄養教育実践実習 本実習では、ライフステージ・ライフスタイルごとの栄養教育のあり方をもとに、学校・地域・産業・医療・福祉における集団を対象とした栄養教育を実施するためのアセスメントの方法、目標の設定、学習形態、教材の選択、栄養教育実施上の配慮点、教育活動の評価方法についてグループ討議を行いながら、栄養教育計画の作成能力と課題に対応するための実践力を育成することを目標としている。具体的には、討議法の学習、対象集団のアセスメント、栄養教育計画、模擬授業をグループで行なう。評価は、授業態度(グループへの貢献度)、課題の提出状況と模擬授業による。(授業形態：実習)	

専門教育科目 臨床栄養学 専門分野	臨床栄養学総論	<p>本講義はチーム医療を担う管理栄養士の職務を理解し、傷病者の病態に適した栄養管理能力を育成するため、臨床栄養に関する基礎的な知識の習得を目標とする。評価は、筆記試験により行う。（授業形態：講義）（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（③ 宮崎吉規/5回）臨床栄養管理の意義、疾患・病態の検査・診断および治療法の概略を担当する。</p> <p>（専任補充/10回）臨床栄養ケアとマネジメント、栄養評価、栄養補給法を担当する。</p>	オムニバス方式
	臨床栄養学総論実習	<p>本実習では、各種疾患における適切な食事療法の重要性を認識し、食事設計実習において学習した健康な人の献立作成の技術をもとに、各種疾患に対応する献立作成の技術を習得することを目標としている。具体的には、エネルギー・脂質・タンパク質コントロール食、減塩の技術、食物繊維、カルシウム、鉄などの栄養成分をコントロールする献立作成法、消化機能の低下に応じた食形態と調理法及び糖尿病及び腎臓病の食品交換表の使い方を学習し、献立を展開する技術を習得する。評価は、筆記試験と課題提出による。（授業形態：実習）</p>	
	臨床栄養学各論Ⅰ	<p>本講義では、臨床栄養学総論において学習した栄養マネジメントに必要な知識を基礎として、各ライフステージにおいて特徴的な疾患の臨床栄養管理について理解することを目標とする。具体的には、乳幼児期では食物アレルギー、学童期では小児腎疾患、1型糖尿病等、妊娠期は妊娠高血圧症候群、成人期では悪性新生物等、高齢期においては、栄養障害、嚥下障害、褥瘡、慢性閉塞性肺疾患等についての病態、生理・生化学、栄養評価、栄養補給法、栄養教育について学習する。評価は筆記試験によって行う。（授業形態：講義）</p>	
	臨床栄養学各論Ⅱ	<p>本講義では、臨床栄養学総論において学習した栄養マネジメントに必要な知識を基礎として、疾患別の臨床栄養管理について理解することを目標とする。具体的には、消化器疾患（口腔・食道疾患、胃・十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患、肝疾患、膵炎）、内分泌・代謝疾患（肥満症、糖尿病、高尿酸血症、脂質代謝異常、甲状腺機能障害）、循環器疾患（心疾患、高血圧症、動脈硬化症）、腎臓疾患についての病態、生理・生化学、栄養評価、栄養補給法、栄養教育について学習する。評価は筆記試験によって行う。（授業形態：講義）</p>	
	臨床栄養学各論Ⅲ	<p>本講義では、臨床栄養学各論Ⅱに引き続き疾患別の臨床栄養管理について理解と、臨床栄養における栄養指導及び他職種と協働するための知識・技術について習得することを目標とする。具体的には、血液疾患、感染症、骨代謝疾患、外科的栄養管理、在宅・訪問・院内における栄養指導、これからの臨床栄養管理（チーム医療、クリニカルパス、保健・医療・福祉の統合）等について学習する。評価は筆記試験によって行う。（授業形態：講義）</p>	
	臨床栄養学各論実習	<p>本実習は傷病者の病態や栄養状態に基づく適切な栄養管理の基礎理論と症例に対応する栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成力の育成を目的とする。具体的には、症例をもとに疾患の特徴、栄養状態の判定、評価、栄養必要量の算定、栄養補給法の決定方法について習得するが、栄養管理が特に重要視される腎不全・透析食の実習、肝疾患食、嚥下障害食の実習も取り入れて授業を進める。評価は、レポート及び筆記試験による。（授業形態：実習）</p>	

専 門 教 育 科 目	公 衆 栄 養 学	公衆栄養学	本講義は地域や職域等の健康・栄養問題とこれに関する自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析する能力を養う。公衆栄養プログラムの策定に際して具体的に活用できる基礎知識を得ることを目標としている。具体的には公衆栄養学の概念、わが国の公衆栄養活動の歴史と課題、国民健康栄養調査、わが国の栄養政策、食事摂取基準、わが国の健康・栄養問題の現状と課題、栄養疫学の概要、食事摂取量の測定方法について授業を進める。評価は出席と筆記試験による。(授業形態：講義)		
		公衆栄養マネジメント	本講義では、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。具体的には、公衆栄養マネジメントの概念、公衆栄養アセスメント、公衆栄養プログラム計画、目標設定、実施、評価、公衆栄養と栄養教育、諸外国の現状と栄養士養成制度、諸外国の食事摂取基準とフードガイドについて授業を進める。評価は出席と筆記試験による。(授業形態：講義)		
		公衆栄養学実習	本実習では、地域住民の健康づくり推進のため実践活動の技術の習得とヘルスプロモーション能力の向上を目標とする。具体的には、国民健康・栄養調査手法による食事調査法、既存資料を活用した健康・栄養状態の把握と地域栄養計画策定、住民参加型健康づくり活動、効果的な媒体作成、行動変容を促す栄養指導技法の習得、行政における栄養士活動を通じた健康づくり施策に対する理解を深め、健康づくりに必要な公衆栄養の実践活動を学ぶ。評価は出席とレポートによる。(授業形態：実習)		
	専 門 分 野	給 食 経 営 管 理 論	給食計画・実務論	本講義は、給食を管理運営するために必要となる、食事の計画や給食サービスに関する知識と技術を習得するとともに、給食に関係した法規や給食の目的を理解し、栄養的、衛生的、経済的な給食サービスの運営が行えるようにすることを目標とする。具体的には、給食の目的、関連法規、給食サービスの流れ、栄養管理の目的と方法、衛生的な食事提供、食材料管理、作業管理、施設・設備管理の目的と方法、給食の諸帳簿、原価管理などについて授業を進める。評価は、テストと出席による。(授業形態：講義)	
			給食運営実習	本実習は、学内の給食実習施設を利用し、学生自らが給食の管理運営を行うことにより、給食サービスの提供に関する技術を習得することを目標とする。具体的には、給食業務の流れを体験し、作業の手順を理解する。食材料の発注や検収の方法、各作業における衛生管理のあり方、各種の大量調理用機器の使用法、給食に関連した帳票の作成などを体験する。なお、作業の大半はグループ活動であり、実習と演習のローテーション形式で授業を行う。評価は、実習への取り組み、提出物、出席による。(授業形態：実習)	
			給食経営管理論	本講義は、特定給食施設対象者の身体の状況、栄養状態といったアセスメントに基づいた栄養・食事管理ができるとともに、給食にかかわる組織や経費についてのマネジメントの考え方や方法を習得することを目標とする。具体的には、給食施設利用者のアセスメント情報に基づいた栄養・食事管理、給食を計画的に提供するためのシステム、給食をマネジメントする方法、施設別給食業務等について授業を進める。評価は、テストと出席による。(授業形態：講義)	
			給食経営管理実習	本実習は、給食運営実習を発展させたもので、新しい調理法による給食作りを体験するとともに、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントが行えるように体験を通して育成することを目標とする。具体的には、クックチル・真空調理といった、新しい調理法を取り入れた実習を体験するとともに、施設の対象者に合わせた給食を、それぞれの施設の特徴を理解した上で体験するように授業を進める。なお、作業の大半はグループ活動であり、実習と演習のローテーション形式で授業を行う。評価は、実習への取り組み、提出物、出席状況による。(授業形態：実習)	

専門教育科目 専門分野	総合演習	総合演習Ⅰ (学外実習事前・事後指導)	<p>総合演習Ⅰでは、臨地実習に向けて実習の目的、目標や各施設の概略について理解を深めて関連知識を整理し、実習における課題発見と問題解決が出来ることを目標とする。具体的には各実習施設の概要説明、課題の発見、下調べ、実習計画書作成について授業を進め、14・15回目は臨地実習報告会等の事後指導を行う。全15回のうち12回をオムニバス方式で行い、初回の概要説明と事後指導2回は3人の教員が共同で担当する。評価は、レポートと出席による。(授業形態：演習) (オムニバス方式/12回、複数教員共同担当/3回)</p> <p>(⑦ 古閑美奈子/4回) 保健所や市町村保健センターでの実習に向けて、自ら課題を発見し問題解決を図れるようあらかじめ課題を設定して下調べを行う。</p> <p>(④ 影山光代/4回) 実際の給食現場での実習に向けて、自ら課題を発見し問題解決を図れるようあらかじめ課題を設定して下調べを行う。</p> <p>(専任補充/4回) 病院での実習に向けて、自ら課題を発見し問題解決を図れるようあらかじめ課題を設定して下調べを行う。</p>	オムニバス方式 12回 複数教員共同担当 3回
		総合演習Ⅱ	<p>総合演習Ⅱでは専門分野で学ぶ教科を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養うことを目標とする。評価はレポート・筆記試験・授業態度による。(授業形態：演習) (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑨ 藤井まさ子/7回) 具体的には特定健診・特定保健指導における積極的支援の初回面接を想定したロールプレイを行い、栄養評価と面談の技術を習得する。</p> <p>(② 中島久実子/8回) 具体的には代表的な疾患の臨床検査値ならびに病態を正確・迅速に読み取るために、栄養管理の根拠となる臨床生化学について総合的に学習する。臨床におけるカルテのデータから病態を読み取る能力を養成する。</p>	オムニバス方式
	臨地実習	校外実習 (給食の運営)	<p>本実習は、学内で学んだ専門教育科目を基に、山梨学院大学附属幼稚園・小学校の給食施設において、栄養士業務の実際を体験的に学び、栄養士としての実践力を養うことを目標とする。具体的には、実習施設の概要や給食の特徴、栄養士の役割や使命を理解する。また、栄養管理、衛生管理等の給食業務の実際を体験するとともに、学内で学んだ知識や技術を給食現場で活用し、実習を通して専門職に対する理解を深める。評価は、実習施設による評価、提出物、出席による。(授業形態：実習)</p>	
		臨地実習Ⅰ (公衆栄養学)	<p>本実習は、保健所・市町村保健センターといった、公衆栄養実践活動の場において、栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする方法と実際を学ぶことを目標としている。具体的には行政栄養士の役割や使命、地域保健の現状と栄養改善施策の企画、実施、評価を総合的にマネジメントする方法、地域における健康教育の実践活動などについて実際の体験を通して課題をみつけ、問題解決の方策を検討することなどを学ぶ。評価は出席とレポートによる。(授業形態：実習)</p>	
		臨地実習Ⅱ (給食経営管理論)	<p>本実習は、実際の給食現場で組織や資源をどのようにマネジメントしているかを体験的に学び、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うことを目標としている。具体的には、実習施設の概要及び栄養部門の業務内容、施設における管理栄養士の役割・使命、給食業務全般のマネジメントの実際、給食業務や喫食者に関する課題発見・問題解決の方策検討等について行う。評価は実習施設による評価、提出物、出席による。(授業形態：実習)</p>	



専門教育科目 専門分野 臨地実習 健康栄養特講 健康栄養特講 健康栄養特講 健康栄養特講	臨地実習Ⅲ (臨床栄養学)	本実習は、傷病者の病態や栄養状態の判定・評価、栄養管理の方法、栄養指導等を学ぶ中で、課題を発見し、解決する能力を養うことを目標としている。具体的には、実習施設の概要及び栄養部門の業務内容、医療における管理栄養士の役割、栄養評価・判定に基づくマネジメントの実際、他職種との連携などについて実習の中から課題をみつけ、問題解決の方策を検討する。評価は出席とレポートによる。(授業形態：実習)	
	健康栄養特講A (人体の構造と機能及び疾病の成り立ち)	本講義は、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」に関する知識を基礎として、人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、治療等を理解・説明できる能力を育成することを目的とする。具体的には、個体とその機能を構成する遺伝子・細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を理解し、個体として人体が行う基本生活活動や環境変化に対する対応機構を理解する。さらに正常な構造や機能から逸脱した疾病の発症や進行について、病態評価や診断、治療の基本的考え方を習得する。評価は筆記試験、レポート、授業態度による。(授業形態：講義)	
	健康栄養特講B (食べ物と健康)	本講義は、食べ物と健康の分野から食品学や食品衛生学について、新しい知見の学習、文献講読を交えながら管理栄養士として必要な実力と応用力を育成することを目標とする。評価は筆記試験による。(授業形態：講義)  (⑧ 名取貴光/7回) 生体機能に関する食品や食品成分、またその作用機序を科学的に解説する。食品の機能として、抗酸化機能、消化吸収促進機能、難消化、吸収阻害と微生物活性機能、脂質関連代謝機能、神経系や免疫系におよぼす機能等について授業を進める。  (⑤ 仲尾玲子/8回) 法改正に伴う食品の新たな規格・表示、食品衛生行政と新規関係法規、最新食中毒統計、食品の衛生管理・対策とHACCP、ISO22000について解説する。	オムニバス方式
	健康栄養特講C (栄養学)	本講義は、各栄養素の機能及び栄養素の消化・吸収から代謝についての理解を深め、栄養素と身体機能及び疾患予防との関係について専門性を高めることを目標とする。具体的には、栄養素の消化・吸収や体内動態をはじめ、栄養素の代謝について知識を補充し、さらに生活習慣病に関わる遺伝子の発現と栄養、栄養素の過不足による疾患などについて講義を進める。知識の補充に加え、文献検索や研究論文の講読等により新たな知識を得る手法を学ぶとともに、栄養に関連する科目との関連性も踏まえて基礎的な栄養素の知識を応用する力を育成し、総合的に理解しようとする態度を養う。評価は、小テスト、筆記試験により行う。(授業形態：講義)	
	健康栄養特講D (栄養管理)	本講義では、管理栄養士として卒業後の職務遂行に向けて、総合的な学力の向上と新たな研究に基づいた知識の補充により学習の深化を図ることを目標とする。具体的には、個人、集団、発達段階等に応じた栄養教育マネジメントの実践例をもとに、総合的に適切な栄養教育を展開する力を育成する。また、健康栄養関連法規や食生活に関する制度及び政策など、社会的な状況の変化を踏まえた食環境づくりのあり方について考える。評価は筆記試験による。(授業形態：講義)	

専門 教育科目	健康 栄養 特講	健康栄養特講E (公衆栄養)	本講義は、行政および地域での公衆栄養活動に関する理解を深め、専門性の向上を図ることを目標とする。具体的には、①栄養関連法規の制定及び改正における社会的要因 ②EBN (Evidence - Based Nutrition) に基づいた健康栄養管理における情報の収集・分析、評価の在り方と改善課題の抽出 ③抽出課題に対する栄養教育計画の立案 ④地域栄養、国際栄養の現状と課題等に対する理解を深め、実践的能力を養う。評価は、小テスト、筆記試験により行う。(授業形態：講義)	
		栄養学基礎英語	本演習は、健康・栄養・食に関する英文での情報について理解し、活用できる力を養うことを目標とする。具体的には各栄養素やその供給源となる主要な食品名について、食品衛生、生活習慣病などを中心とした食べ物の摂取、消化、吸収、代謝排泄や疾患に関連する語句について学習を進める。また、後半は健康や栄養、食に関連した英文について、各自が準備を行いクラスに発表する発表授業の形式によって演習を進める。評価は出席とレポートによる。(授業形態：演習)	
		やまなしの食	本講義は、山梨県内の食資源の種類やそれぞれの食品学的・栄養学的・食文化的特性、生産から加工、流通、消費までの過程に関する知識を習得するとともに、山梨県における食の安全の取り組みについて理解することを目標とする。具体的には、畜産・酪農、森林資源、野菜、果実などの食資源と食の安全、地域の食文化などについて外部の講師を交えて学ぶ。これらの知識を基礎として、地域食資源の有効利用(メニュー開発、食品開発、食育など)に展開するように授業を進める。評価は、レポートと出席による。(授業形態：講義)	
	地域 連携	地域の食と栄養活動実習I (地域農畜産物活用)	本実習は、地域の農畜産物を活用した給食メニューや加工品を考案するとともに、地産地消の意義を理解することを目標とする。具体的には、農畜産物の活用方法の検討、メニュー開発や加工食品開発までの計画作成、実施、評価の過程を体験する。開発したメニュー・製品は関連機関に提案することにより、地域との連携を図るよう授業を進める。評価は、レポートと出席による。 (授業形態：実習) (オムニバス方式/全15回)  (⑪ 岡本裕子/7回) 使用食材の選定、対象者、季節等を考慮した献立作成、試作実習・検討後、印刷物等により情報を提供する。  (⑮ 仲尾玲子/8回) 地域における利用食材の調査・選定、食材に適した加工食品・工程の検討、試作実習、評価・改善、製造開発した食品の印刷物等による情報提供を進める。	オムニバス方式
		地域の食と栄養活動実習II(地域食育活動)	山梨県における食生活と健康の実態を知り、地域ニーズにあった食育活動の方法を考え、具体化して実践活動を行い、健康増進に寄与することの意義を理解し、食育・栄養教育実践力を身につけることを目標としている。具体的には、初回授業において「山梨県民の健康・疾病の実態と健康増進活動」及び「食育活動の現状と課題」のゲストスピーカーによる講義から、課題の発見、教育目標の設定、食生活改善をめざす企画・立案、教育教材作成を行い、地域において食育活動を行なう。評価は、授業への貢献度、食育活動状況、事後報告書による。(授業形態：実習)	